



## さあ、『おてつたび』に出かけよう。 ふるさと探しの旅へ。

～あなたの『故郷と呼べる場所』を見つけにいく。～

「お手伝い」と「旅」を掛け合わせた『おてつたび。』とは、地域の短期的・季節的な人手不足で困る事業者等と「知らない地域へ行きたい!」「仕事をしながら暮らすように旅したい!」と思う都市部の若者をマッチングするウェブ上のプラットフォームです。

市ではテスト的に市内事業者の皆さんと共同で「おてつたび栗原プラン」を企画。お手伝い(滞在)を通して、今まで知らなかった栗原が、参加した学生たちにとっての『特別な地域(地域のファン)』になってもらいたい。

「ふるさと」と呼べる場所がない都市部の若者と栗原との移住ありきじゃない、新しい関わり方を提案していきたいと考え実施しました。今号では4つのプランに参加した12名の学生たちの声を届けます。



**プラン① 六日町通り商店街の新たな拠点づくりをお手伝い**  
**僕のふるさと栗原へ、また少ししたら「帰ろう。」**  
\*\*\*\*\*  
**齋藤 光祐さん(東京都在住・大学生)**

今回の「おてつたび」で得られたものは、行く前には全く想定していませんでした。

「あたたかい人との出会い」「豊かな自然」「非日常的な体験」せわしない都会に疲れた人間は、こんなものを求めて旅に出ます。

しかしそんなものは、意外とそこらに転がっているものです。東京にも素敵な出会いがあります。電車で小一時間乗れば自然が迎えてくれます。非日常なことなんて、その気になればこの部屋でだってできます。

ところが「おてつたび」は、かけがえのないものを僕にくれました。それは『ふるさと』です。

おてつたび先として1週間滞在した栗原市は、今では僕のふるさとになりました。

栗原で出会った美しい人たち、麦色の世界と雄大な山々、仕事で流した汗。これらを単なる旅先の景色や体験と呼ぶのには些細な違和感を抱きます。



現地での出来事は、例えるなら心の中の「旅行」フォルダーではなく、「大事なもの」フォルダーに入っているのではないかと考えています。

栗原には心強い「兄貴」たち、ちやほやしてくださった「おばさま」方、それから「おかあちゃん」を残しています。いつでも遊びに来いと言ってくれたみなさん、それは違います。僕のふるさと栗原へ、また少ししたら「帰ろう」と考えています。

**プラン① 六日町通り商店街の新たな拠点づくりをお手伝い**  
**人と人の絆の太さ、面白い人が多いと実感。**  
\*\*\*\*\*  
**平林 健汰さん(新潟県在住・大学生)**

本やインターネットで座学を通しての知恵よりも、行動して得られる知恵の方が明らかに身につくような感じがしました。商店街や地域の方々と話してみても、絆が太いことと面白い人が多いと感じました。

その中で、熊そばの亭主夫婦の話が心に残っております。猟師の大変さだけでなく、自然の大切さなどの貴重な話を聞くことができたことは幸いです。

大地の恵みや人の温かさという、都会にはないものに触れられた貴重な1週間になりました。



### プラン① 六日町通り商店街の新たな拠点づくりをお手伝い

## 一番惹かれたのは『人』自分の帰る場所がもう一つできた。

\*\*\*\*\*

### 小林 璃代子さん(神奈川県在住・大学生)

おてつたびでは大変お世話になりました。まちの方に関わり、学び、考え、楽しみ、今思っても爽りのありすぎる1週間でした。

横浜に戻ってきてからも栗原を思い出せばかりです。それは例えばスーパーで買い物をしているとき「よく行った産直のお店、形悪くても美味しい野菜がたくさんだったな」とか、建物内を歩いているとき「ここは建物の土台だからちゃんとまたがなきゃな」とか、何気ないタイミングでふとやってきます。

おてつたびの期間、地域の方と日常を一緒に過ごさせていただいたことで、栗原は旅先であり、自分の居場所にもなりました。生活をしていたからこそ、いまの生活の中でもよく記憶が蘇ってきて、すぐまた行きたくなって、困ってしまいます(笑) おてつたび後の自分の変化として特に実感しているのは、「自分のことは自分でやる。周りにも頼る。」という考え方になったことです。

当たり前なことかも知れませんが、帰ってきてからいかに自分の身の回りのことに無知であるか、また物に頼りすぎている分、人とのつながりができにくくなっているかという事に気づかされました。

栗原では多くの方に出会いましたが、自ら生産をしていたり、素敵な場所をつくっている方が多かった印象があります。自然を理解して、それに沿って自分が暮らしやすいように生きている姿がとてもかっこいいと思いました。

身の回りのことを知っているからこそ、自由に自信を持って生きていけるのかなと感じました。

都会ではお金さえあれば基本的には不自由なく暮らせます。しかし、不便だからこそ誰かと助け合えたり、自分でつくる喜びに出会えたりもする。自分の好きなことを好きなように追求しやすい。それを自然とやっているのが栗原の人たちの強みであり、惹かれるのかなと思います。

ただ、歩いて移動している人たちの楽しみが少ないことは勿体ないと思いました。例えば六日町商店街周辺にはせつかく川のせせらぎがあるにも関わらず、水遊びをしたり長く座ったりはしづらくなっています。

また、歴史ある場所なのですが、それを知る看板や巡る道筋も分かりにくい気がしました。地元の方が魅力的な分、外から来たひとと街中で交流が生まれる場所が増えたらもっと素敵だと思いました。

いろいろと書いてしまいましたが、私がいちばんに惹かれたのは『人』です。行きたくなるのは、会いたい人がいるからです。個性豊かで、すぐに親しくしてくださるかっこいい方々が栗原にはたくさんいらっしゃり、思い出や言葉を振り返るだけでとても栗原が恋しくなります。自分の帰る場所がもうひとつできたようで、気持ちが暖かくなります。

おてつたびというかたちで行けたことで、より多くの、素敵な人に出会うことができたこと、本当に良かったです。ありがとうございました。そしてこれからも長く、よろしくお願ひいたします。



### プラン② 湖のほとりの小さな村の祭りをお手伝い。

## もっともっと人と関わりたい。という想いが強くなった。

\*\*\*\*\*

### 池山 愛理さん(石川県在住・大学生)

他大の男子学生や地域おこし協力隊の方々、本坊さん、市役所の方々など、様々な人と一緒になって一つのワークショップを創りあげることができて楽しかったし、充実した2日間でした。

ワークショップの中で、小学生や保護者の方々とのコミュニケーションを考える良い機会になったし、綱引きでは子どもも大人も本気で取り組む姿に「東北魂」を感じました。

何よりもこのイベントをつくりあげている花山の人々の熱を感じられたし、私たちを歓迎して寛容に受け入れてくださったことが大変嬉しくて、花山の温かさを感じました。

今後、雪ご祭りなどのイベント当日のお手伝いだけでなく、企画の段階から一緒に考えながら運営もしてみたいと思いました。イベントを通して、人の温かさを感じることができて、もっともっと人と関わりたいと思う気持ちが強くなりました。交流会でみんなでお酒を飲みながら、栗原のこれからについて語り合ったのが一番印象的でした。

約1週間、本当にお世話になりました。初めから最後まで手厚くサポートしていただき、感謝しかありません。

書ききれないことが多いですが、色んな人と会って、温かく迎え入れていただいて、濃密な1週間でした。本当に楽しかったですし、絶対に帰ってきたいです。もう第2の故郷にしたいです。

栗原で過ごした1週間は、心が豊かになれたし、たくさん刺激も受けました。就活・大学生活などで無機質になりかけていた心が浄化され、自分のやりたい方向も見えてきたような気がします。今後も何かあればぜひお声がけいただきたいです！ではまた5月に～！





プラン② 湖のほとりの小さな村の祭りをお手伝い。

### 地域の魅力や暮らす方々の人としての魅力を直接体感。

\*\*\*\*\*

三浦 万侑さん(神奈川県在住・大学生)

本来、雪っこまつりの予定で楽しみにしていたので、スポーツ大会になってしまったのは少し残念でした。でも、スポーツ大会を通じ、栗原以外の地域の子どもや、人々にお会いしてお話をする事ができたのは大変貴重な経験になりました。

スポーツ大会のお手伝いの合間の時間で、栗原のスポットをまわる中で、その地域の魅力を肌で感じる事ができたのは、今後の自分に大変役に立つものでした。地方の方々の人としての魅力も直接感じたり、都会ではあまり味わえない人の温かさに触れる事ができて本当に良かったです。

約1週間、本当にお世話になりました。市の職員の方々ははじめ、阿部さんや佐々木さん、地域おこし協力隊のお三方、地域の皆様に感謝しても足りないぐらいです。論文の研究もあるので今後もお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

プラン② 湖のほとりの小さな村の祭りをお手伝い。



### 楽しく地域の人たちと馴染めるイベントで本当に良かった。

\*\*\*\*\*

菅生 野々花さん(埼玉県在住・大学生)

とても楽しかったです。地域の人たちと初めて顔を合わせる時は、どう思われるか不安ではあったけど、市の職員の方々がどんどんと輪を広げるように紹介していただいて、すぐに馴染むことができました。本当にありがとうございました。本来、雪っこまつりの予定がイレギュラーで室内イベントに変わり、栗原の皆さんも試行錯誤の中、私たち外部の者への配慮や説明を抜きなく丁寧にフォローしていただけて助かりました。

箸づくりもキャンドルづくりも、初めて作り方などを知ったため、少し不安はありましたが、事前の材料の仕込み・準備等もすべてしていただいて、私たちはそれを使用して動くだけという、こんなに簡単でいいのかと思うぐらいでした。

楽しみながら協力させてもらえて、かつすぐに地元の方々と馴染める今回のイベントがあって本当に良かったです。自分自身、地方創生関連の仕事がしたいと思っているので何か力になれることがあれば今後もぜひ協力させていただきたいですし、また栗原を訪れて、さらに勉強しようとも思っています。今回、何から何まで、細かなところまで抜きなく、ずっとサポートしていただき、本当に本当にありがとうございました。市の職員さんをはじめ地域おこし協力隊の方々、出会ってくださった皆様に御礼申し上げます。感謝してもしきれません…。ぜひ今後ともよろしくお願いたします！



プラン③ 栗原の豊かな自然を体感。栗駒山の『森』を守る仕事をお手伝い。

### 将来、自分がやりたい仕事の方向性が見えてきた。

\*\*\*\*\*

宮川 りら子さん(東京都在住・大学生)

温かい人ばかりで本当に楽しく1週間を過ごすことができました。森林組合プランに参加する前から、大学で林業に少し興味がありましたが、実際に色々な現場や作業を見させていただいて、さらに興味が湧きました。大きくなるまで長い年月がかかる木とどのように向き合っていくのか、考えさせられました。

森林組合の方々が皆さんとても親切に丁寧に教えてくださいましたし、色々なお話ができてとても楽しく作業できました。

将来、自分がやりたい仕事の方向性が見えてきた気がします。

そして1週間、とにかくお世話になった栗原市の職員の方々に!! 本当に感謝しかありません。たくさんのおもしろい方々とつなげていただいて、色々な場所に連れて行っていただいて、とても充実した1週間でした。

地域や地域の人、よそから来た人への「愛」がすごくて本当にステキだと思ったし、私もそうなれるように頑張ります。





プラン③ 栗原の豊かな自然を体感。栗駒山の『森』を守る仕事をお手伝い。

また会いに来たい。もっとその人のことを知りたい。

\*\*\*\*\*

伊藤 豊さん(東京都在住・大学生)

本当にとても楽しかったです。普段とは全く違う生活環境と生活リズムで、初めての経験が多々あり、とても貴重な時間でした。今回は、市の職員さんがが付きっきりで、栗原の色々な場所に連れて行ってもらいました。

東京や大阪で観光といえばスカイツリーや道頓堀だとか「名所」と呼ばれる場所や、U S Jなどの遊園地を訪れるという意味です。なので大阪育ちの僕からすれば、大阪に来る観光客は大阪城とか通天閣などによく行くけど、結局見るだけで、そういうものが好きな人以外は楽しいのかな？と思っていました。

でも、栗原市では観光をしに行くのが「場所」ではなく「人に会いに行く。」という意味になるのかなと感じました。

会う人・会う人がみんなおもしろくて、また会いに来たい、もっとその人のことを知りたいと思いました。

皆さんとても優しく、見ず知らずのよそ者にここまでしてくれるとは思っていませんでした。人の温かさを本当の意味で知ることができた気がします。今回の「おてつたび」に関わってくれた人たちには尊敬と感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。



プラン④ 栗原の旬な野菜に触れる。新鮮野菜の収穫・出荷のお手伝い。

次はトマトやナスも。1週間では足りない。笑

\*\*\*\*\*

水田 理紗さん(神奈川県在住・大学生)

私は神奈川県生まれ神奈川県育ちで、今まで便利な環境で過ごしていました。しかし、電車の中でスマートフォンをじっと見つめている人を見て、暗い表情をしていることに気づいた時に、このままでいいのか…いやいけないと思いました。

ずっと農業をやってみたい、知りたいと思っていた時に、ちょうど「おてつたび」で農業体験がありました。

農業は自分で植えたタネを見守っていくうちに、まるで子どもを育てているような感覚になっていくようで、収穫した時にうまく育ったものを見ると本当に良かったと達成感が味わえるそうです。グリーンハンド(現場に行って直接さわること)が一番大切だと。

作業はとても楽しかったです。サンチュだけでなく、トマトやナスも育ててみたいと思いました。1週間では足りませんね(笑)

皆さんの温かさを神奈川に持って帰りたいと思います。市職員の皆さん、筒井さん、佐々木さん、地域の皆さん、ありがとうございました。



プラン④ 栗原の旬な野菜に触れる。新鮮野菜の収穫・出荷のお手伝い。

農場経営の話を直接聞ける貴重な機会。

\*\*\*\*\*

今泉 春風さん(群馬県在住・大学生)

今回初めて「おてつたび」という形で栗原市を訪れて、最初は不安が大きかったです。

けれども、市の職員の方の手厚いサポートをはじめ、おてつたびというカタチで受け入れてくださった耕佑さん、お話を聞かせていただいた地域住民の皆様、地域おこし協力隊の方々のおかげで、とても良い経験をすることができました。

農業の話はもちろん、農場経営についての話を実際に働いている方々から直接聞くことができ、とても勉強になりました。

普段は書籍や映像から知ることが多いので、このような現場を見ながら知ることができる機会はなかなかできないことなので、とても有意義な1週間でした。

プラン④ 栗原の旬な野菜に触れる。新鮮野菜の収穫・出荷のお手伝い。

この栗原に愛着を持つことができた。

\*\*\*\*\*

石黒 優希さん(兵庫県在住・大学生)

もっと労働時間が長いと思っていました。毎日朝から晩まで働いて、クタクタに疲れるのかと思っていましたが、実際はそんなことはなくて、市の職員の方々が栗原市のことを教えてください、その分、私はこの地域に愛着を持つことができました。

たくさんの興味深い文化・食・歴史・人々、移住体験談に触れ、私なりに考えるものがありました。次に来るのがいつになるのかわからないですが、近いうちにまた来ようと思います。

腹を割って栗原の良い面も悪い面も私たちは見聞きすることができたので、その分、素直に意見を言うことができましたし、質問もたくさんできました。

「おてつたび」のサイト上では「移住」の文字はなく、単にアルバイトのようなものだという感覚でした。しかし、そんな私でも2日目・3日目から「もし自分が移住するとしたら…」というシミュレーションを頭の中でするようになりました。学ぶことが多い8日間でした。